

奈っ自慢子

子どもたちに身に付けさせたい力

主体性： ㊦ 気づく→㊦ 考える→㊦ 動く

自立貢献：自分のことは自分で行き、人のために行動する。

奈留小中学校 学校通信 12月号 文責 校長 寺脇 秀司

校訓 なせばなる なさねばならぬ なにごとも ならぬは 人の なさぬなりけり

教育目標 夢・実現 ～自ら学び 自ら生き方を切り拓き 夢を実現する児童生徒の育成～
3つの力【つながる力】【わかる力】【えがく力】 愛言葉 団挨拶㊦一生懸命㊦動㊦笑顔困思いやり㊦考える㊦気づく

12月

本校では子どもたちの表現力向上を目指し、俳句や短歌を創作しています。

友六人 並び眺める 秋の海 3年 谷内 航
秋晴れや おにに追われて 転びけり 1年 片岡 美乃里

奈留島の宝 万歳!!

12月5日(木)小学5・6年生が「奈留・実践」の授業でなるの里の井戸端会議に参加し、歌・ダンスの披露や入所者さんとのおしゃべりを楽しみ、多くのことを学びました。タイトルの「奈留島の宝 万歳!!」は入所者さんから子供たちに贈られた言葉です。とても大きな声で発言され、非常に感動しました。また、ひ孫に会えて幸せという入所者さんもいました。

子供たちの気づき



- なるの里の利用者は優しい人たちばかりだったし、一生懸命しゃべろうとしていた。私が発表するときも利用者の方が応援してくださってうれしかった。
- なるの里に行って、学校で調べたものよりも、たくさん理事長さんや職員さんに教えてもらってよかったです。
- 老人ホームは、「利用者さんの人生で最後の場所」と言われていた。人生最後の場所を楽しくしようと心がけていた。
- 職員がいつもしていることは、①あいさつ ②笑顔 ③言葉づかいということを学びました。利用者さんが「なるの里に来てよかった」と言っていた。
- 私ははじめて会った人としゃべるのに緊張して困っていたら、入所者さんがにっこりと笑ってくれました。私も笑い返したらすごくうれしくなりました。

○理事長さんの言葉が心に残りました。利用者さんたちを必ず名字で呼ぶ。理由は私たちの人生の先輩だから。子供扱いはできない。



子供たちの命を守る

避難訓練



東日本大震災で津波に遭遇した宮城県石巻市立大川小学校では74人の児童が犠牲になり、学校の責任が問われていた裁判で、最高裁は2審の仙台高裁の判決を支持し、市と県の上告を棄却した。

判決は、大川小が作成した危機管理マニュアルに避難場所が記載されていなかったことが問題で、避難先が適切に記載され、全職員で共通理解をしておけば、被害を防ぐことはできたと厳しく指摘した。



今回の避難訓練は地震と津波を想定したもので、避難場所を近隣で最も高い場所である奈留高校のグラウンドに設定した。子供たちの避難の様子は真剣で迅速、かなり遠い場所でしたが3分36秒という短時間で全員が避難を終えました。

その後、一級建築士で五島市岐宿町出身の田端健二さんを神戸から迎え、「地震に備えた住まい方について」と題して、講話をしていただきました。

阪神淡路大震災を体験された田端さんは、五島の子供たちの役に立ちたいという思いを持たれており、五島の良さを全国にアピールしてくださっています。

講話の内容は「地震に対して私たち自身ができること」「普段からの備えの大切さ」について手作りの「牛乳パックビル」を使い、建物の補強についてわかりやすく説明してくださいました。

子供たちの気づき

- 田端さんの話を聞いて、前は地震はあまり怖くないと思っていました。怖いものだと知って、家具を固定しようと思いました。お母さんと相談して少しでも命を救えるようにしたいです。
- 突っ張り棒は奥につけるといいことがわかった。



人権週間



全国一斉に12月4日から10日までを「人権週間」と定め、人権について考える様々な取組が行われました。

本校でもなかよし集会(小)や人権集会(中)を実施し、だれもが安心して学べる学校をめざして「思いやりの心」や「命の大切さ」について考えました。

小学校のなかよし集会では、人のしあわせについて考える集会であることを確認し、「フープリレー」や体育館の床を川に見立て、30センチ四方の板の上だけ足が置ける「アシッドリバー」(硫酸の川)という全校活動が



行われ、上級生が下級生をおんぶしたり、より身体を密着したりして、相手の気持ちを考え、協力することの大切さを学びました。

次に、全員で手話コーラス「ともだちになるために」を合唱し、言葉は、人を笑顔にするし、幸せにもする。人を

傷つけ悲しませることもある。自分が発する言葉はどちらの言葉か考えて発言することを確認しました。

最後に、5年生のかのんさんとかなさんが、「自分がされて嫌なことは、人にしないようにしよう。」と児童全員に呼びかけ集会は終了しました。

中学校の人権集会では、各学年から発表があり1年生は全校道徳で学んだ「LGBT」をテーマにしたロールプレイ(役割演技)2年生は「奴隷問題」3年生も1年生と同様に全校道徳で学んだ「LGBT」から更に学びを深めて発表し「この個性で生まれてきた私を私自身で愛します。」と宣言しました。

その後「相手の気持ちを考え、思いやりのある行動をします」など7か条からなる奈留中学校人権宣言を採択しました。



その後「旅立ちの時」を生徒全員で合唱し、「かけがえのない命に、名もない花を咲かそう」と声高らかに歌い上げました。非常に感動的な合唱でした。



実はみんな「ほめられたい」

私が人権教育の基本にしていることは中3の国語で学ぶ「論語」の「孔子」の言葉「自分がしてほしいことは、他人にはほめられない」です。

弟子が孔子に聞きます。「この世の中で一番大切なことは何ですか？」すると「孔子」は「おもいやり」と答え、続けて言った言葉が上の言葉になります。

まずは「自分がされていやなことは人にはしない人」次に「人を喜ばせる(貢献できる)人」に成長してほしいと思っています。

なかよし集会で子供たちに「人からされてうれしいことは？」と尋ねました。

たくさんの意見が出ましたが、「ほめられたらうれしい。」という意見が印象に残っています。「ほめられてうれしい人」と問いかけると、ほぼ全員が手を上げ、職員の手も上がっていました。「人のがんばりをほめること」を「みとめる」ということを紹介し、みんなのがんばりを「みとめる」学校を作ることを確認しました。

2学期

よく頑張った奈っ自慢子

1学期の反省をもとに2学期の目標を「自ら動く人前力の育成」とし、自分で(気づく→考える→動く)ことのできる子ども、勇気を出してみんなの前で発表したり、行動できる子どもの育成を目指して全職員で取り組み、行事等で多くの成果が見られました。

具体的な取組

- 体育大会などの行事で、上級生が下級生に手本を示し、下級生が上級生を目標に努力する本校の目指す姿が見られた。
- 学力向上に向けて、学び直しの時間を設定し、検証問題では成果が見られた。
- 合唱祭や五島市音楽発表会で堂々と自分たちの持っている力を発揮することができた。
- たくさんの「気づき」が授業や学活、校長室前の気づきの箱(141通)に届き、みんなが「気づき」を意識しながら生活する習慣ができた。今後はこの「気づき」を「動き」につなげる。
- あいさつの基準、思いやりあいさつ「レベル5」を作成し、全校をあげて取組み、元気な声、笑顔のあいさつが増えた。

「思いやりあいさつ」

- レベル5
- レベル1 されてからのあいさつ
 - レベル2 自分から
 - レベル3 目を見て
 - レベル4 元気な声
 - レベル5 笑顔

※空き瓶回収へのご協力大変ありがとうございました。収益金は、部活動の活動費として大切に使用させていただきます。今後とも、本校へのご支援をよろしくお願いいたします。よいお年をお迎えください。